



昨年11/1に開催された函南での収穫祭の様子。



函南の農場に建てられたOMソーラーの加工工場。



由井さん自ら講師を務める講演会も全国各地で開催されている。



富士山を望むことができる函南(六本松)の農場。葉物や根菜、穀物の栽培が中心。



洞爺湖を望むことができる洞爺の農場。主にハーブの栽培を行っている。オレンジ色の花は化粧品に使われるカレンデュラ。

たんです。それが今の六本松の農場なんです。そこは前の農家さんがお金がなく、元々自然農でやっていた農場だったので、私たちに好都合でした。その農地を購入したのが5年ほど前のことです。そしてJA、農業振興会、函南町役場、私たちの四社が集まって会議をして、異例の速さで農業生産法人が取れたんです。

「作る」から「売る」まで、一貫してやる

「種にもこだわるといって徹底ぶりですね。由井：そうです。私たちはホメオパシーを通じてたくさんのお客様がいますが、意識の高い方ばかりです。皆さん食の大切さは重々承知していて、本当に安心な野菜を求めています。たとえ無農薬であつても、おしべが欠落しているF1種ではダメなんです。私たちは自家採取の種、在来種か固定種以外使いません。それらの野菜は、安心・安全はもちろんですが、何より美味しいんです。

「食や農業も生産性や経済的な論理が優先されてしまいう面があります。由井：私たちは逆です。他が作らないからやるんです。農家の意識も変えていかな

の土壁や畳、木材を使っています。それが私たちの姿勢を示すことでもあるんです。

「OMソーラーとはどうやって出会われたのですか。」

由井：社員に二級建築士がいて、別に外部の建築の仕事をお願いしているわけではないんですが、社内でも事務所やショップの開設などを行うことがありますから、ある程度建築のことが分かる人間が必要だったんです。彼に自然を生かした建築つてないのか聞いてみたら「それってOMのことですね」って言ったんです。それでいろいろ調べてもらって、函南でOM

くつはいいけません。流通を牛耳られて、買いかけていた状況を変えない限り、いつまでも農薬と化学肥料から逃れることはできないんです。だから私たちは作るところから加工するところ、売るところまで一貫してやることにしたんです。流通の末端で待っている人がいるからこそできたんです。もちろん、この一貫した体制を敷くには大きな資本が必要でした。農場もそうですが、何より加工するための工場や機械に相当おカネが掛かりました。工場だつて私たちの場合、無機質な材料で作ればいいということにはなりません。人間と親和性のある材料、木や漆喰壁など、自然素材を使い、OMソーラーも取り入れました。断熱材だつて呼吸する材料にこだわりました。人間の身体や環境は全て繋がっていて、一つつこだわって、一箇所だけ見ないフリなんてできないんです。私たちが相手にしている人たちは何かしらの健康被害、環境由来のものや薬害、原因不明の不定愁訴など、何処に行っても治らない、悩みに悩んで相談に来られる方々です。そういった方々に対して新建材だらけの建物で迎えるわけにはいかないんです。このビルには私たちの事務所やショップ、レストランが入っていますが、構造は仕方ないとしても、内装はできるだけ自然のもの

の建物が建てられる工務店を探したんです。建築の際も私たちのこだわりを聞いてもらって、工務店さんには「苦勞をお掛けしたと思いますが、今はとても満足しています。とても快適だし、無理言つて太陽熱で穀物やハーブを乾燥させる部屋を作ってもらったりして本当に感謝しています。OMのおかげでとても上手く乾燥してくれるんです。太陽の熱をただ捨ててしまうなんて、本当にもったいないことだと思いました。

求める人が後を絶たない

「OMの良さは住んでみないとなかなか分からないという面があります。由井：実際にそこに行ってみる、体験することが大事です。ホメオパシーも全く同じなんです。レメディを一度摂ってみる、体験しないと四の五の言えないんです。ホメオパシーは一度手酷いパッシングに遭ったことがあります。ホメオパシーに取り組んでいる人は自らの体験を経て良いことを実感している人たちがばかりです。人々ほどの療法を使うか選択できる権利があります。OMソーラーも体験できる機会がありますから、そこで気持ち良さを体験してもらえばいいですよ。」